

[報告] 第3回 JICA短期ボランティアに 参加して —ペルー野球派遣で学んだこと—

近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科

近畿大学産業理工学部

角上 征太郎 清田 龍 金城 舜
野木 鵬太 東 優勝 下村 航平
清水 裕司 田上 啓一郎

派遣期間 2015.2.10～3.9

訪問先 ペルー共和国(リマ市内)

1. はじめに

JICAは、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っている。「すべての人が恩恵を受けるダイナミックな開発」というビジョンを掲げ、多様な援助手法のうち最適な手法を使い、地域別・国別アプローチと課題別アプローチを組み合わせ、開発途上国が抱える課題解決を支援していくということを掲げている。¹⁾

そのJICAのもと短期ボランティアの野球隊員としてペルーに派遣されることになった。

ペルーでは、最も人気があるとされるスポーツはサッカーである。一方、野球をしている子どもたちは多くはない。ペルーでは、自国で野球道具の購入もできない環境であるが、ペルーの子どもたちに野球の楽しさを伝えることを目標に現地に行くこととなった。

本報告ではペルーに派遣され感じたこと、日本の野球とどこが異なるのかなど現地に行って肌で感じたことを報告する。(金城舜)

2. JICA —世界も、自分も、変えるシゴト。—

2.1 JICAの歴史

青年海外協力隊(JOCV: Japan Overseas Cooperation Volunteers)派遣事業は、1965年(昭和40年)4月にわが国政府の事業として発足した。事業の実施は当時の海外技術協力事業団に委託され、同事業団の中に日本青年海外協力隊事務局が設置された。

その後、1974年(昭和49年)8月にわが国政府が行なう国際協力の実施機関とし

て国際協力事業団(JICA: Japan International Cooperation Agency (現国際協力機構))が発足し、その重要な事業のひとつとして受け継がれ、名称も青年海外協力隊となり、今日に至っている。²⁾

2.2 JICAボランティアとは

JICAボランティア事業は、日本政府のODA(政府開発援助)予算により、独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する事業である。JICA事業ビジョンとして、技術協力・有償資金協力・無償資金協力という3つの援助手法を一体的に運用して、途上国の政策・制度の改善、人材育成と能力開発、インフラ整備を、有機的に組み合わせた総合的な支援を行う。また、複数の国にまたがる地域横断的な課題や、複数の分野にまたがる課題に、多様な援助手法と拡大した事業規模を生かして取り組む。そうすることで、こうした包括的な支援を通じて、質と規模の両面で、より開発効果の高い国際協力を追求するとしている。³⁾ 開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む人材を募集し、選考、訓練を経て派遣を行う機関である。

2.3 JICAとペルー野球ボランティア

ペルーに青年海外協力隊野球隊員が初めて派遣されたのは1984年のことで、初代隊員は大森雅人さんである。その後、2代目野球隊員として櫻井国弘さんが派遣され活躍をされた。⁴⁾

しかし、1991年櫻井さんの帰国後、JICAの専門家3人がテロリストにより殺害される事件が発生。青年海外協力隊派遣事業はペルー共和国からの撤退を余儀なくされた。^{3, 4)}

ペルーに野球隊員が派遣されないまま4年の月日が流れたが、1995年に櫻井さんの高校時代の恩師である佐藤道輔先生を中心に「ペルー野球を支援する会」を結成。道具の支援や、佐藤先生の自費で野球隊員を派遣するなどの活動によりペルーの野球を支え、今に至る。^{3, 4)}

現在、青年海外協力隊ペルー野球隊員には昨年短期ボランティアとして派遣された本学卒業生の手銭勇輔さんが派遣されている。また、短期ボランティアとしてペルーで活動を行った経験のある立塚さんと上杉さんは現在、日系社会青年ボランティアとして活動している。立塚さんはアルゼンチンへ、上杉さんはブラジルでそれぞれ野球隊員として派遣されている。(角上征太郎)

3. 近畿大学学生の派遣に至るまでの動き

3. 1 選考

選考は、1次選考と2次選考がある。1次選考は、書類による技術審査と健康診断審査で、語学については、TOEIC330点以上の語学力を証明するスコアの提出が必要になる。2次選考は技術面接、人物面接、必要に応じた追加の健康診断がある⁴⁾。

1次選考の語学力については、短期の団体派遣ならびに過去の活動経験により考慮されることとなった。2次選考の面接審査にも無事に合格することができ短期派遣のボランティア隊員としてペルーへ行くこととなった。

派遣前に、代々木公園で開催された、美味しいペルー2014というイベントにボランティアで参加することができた。ペルー人との触れ合い、ペルー料理や民族衣装、音楽といったペルーの文化を肌で感じることで現地での活動意欲が高まっていった。

3. 2 派遣前訓練

私達、短期派遣隊員は東京渋谷区にあるJICA東京(東京国際センター)で5日間の研修を行った。研修では短期ボランティアの方や、語学訓練免除の長期ボランティアの約50人の方々が研修に参加した。

研修の講座の内容は、大きく2つに分類される。1つは健康管理・安全管理について、もう1つは社会的多様性理解・活用力に関してである。「海外における交通安全」や「安全対策」、「体力維持講座」、「JICAボランティア事業の理念と目標」、「世界の宗教理解」など海外でのボランティアで必要不可欠な内容の講座を受講し、最後にレポートを提出するといった流れである。

中でも重要視されるのは安全対策についてである。日本という国は非常に安全な国である。ゆえに、海外で生活をする際に知識がなかったために危険な目に遭うことが多いのである。海外で被害に遭わないために事前の心構えや、やってはいけないこと、日本での常識が通じないことを指導していただいた。日本人はお金持ちというイメージが強く、犯罪に巻き込まれやすいようである。

そして、健康管理についても重要視されていた。日本にはないマラリアや狂犬病などの対策や飲食物についての注意事項など、自分を守ることの大切さを感じた内容であった。

また、それぞれの派遣国ごとに任国事情を知る講座も開かれている。その国にあった対策が立てられるようになっており、安全にボランティア活動ができるように最善が尽くされている。

この研修を受けたおかげで私たちは現地で安全に楽しく活動することができた。

4. ペルー

4. 1 任国事情

ペルー共和国は、南アメリカの太平洋側に位置し「ナスカの地上絵」、「マチュピチュ」などの歴史的遺産が多い国としてよく知られている。

また、日系人の数が約10万人と非常に多く、これはブラジル、アメリカに次いで世界第3位である⁵⁾。特に、私たちが活動を行った首都リマでは、日系人と関わりがある人のみが使用できるスポーツ施設などもあり、私たちも日系人の方々と交流することが数多くあった。

その他、南米諸国で開催される大きなスポーツイベントとして有名なパンアメリカン・ゲーム2019の開催国がペルーのリマに決定したことやそれに伴う経済の成長など、南米諸国において最も注目されている国である。

4. 2 近畿大学学生、ペルー到着

1. 面積：約129万平方キロメートル (日本の約3.4倍)
2. 人口：約3081万人 (2014年1月推定値、ペルー統計情報帳)
3. 首都：リマ
4. 民族：先住民45%、混血37%、欧州系15%、その他3%
5. 言語：スペイン語 (他にケチュア語、アイマラ語等)
6. 宗教：国民の大多数はカトリック教

年月	略史
1821年	スペインから独立
1968年～1980年	軍事政権
1980年～1985年	ベラウンデ政権
1985年～1990年	ガルシア第一期政権
1990年～1995年	フジモリ第一期政権
1995年～2000年	フジモリ第二期政権
2000年～2001年	フジモリ第三期政権、同政権退陣、パニアグア暫定政権
2001年～2006年	トレド政権
2006年～2011年	ガルシア第二期政権
2011年～	ウマラ政権



写真1 リマ市内の風景

6)

到着後、入国するにあたっての書類を書くことに戸惑い字も読めないという壁に直面した。しかし、たまたま日本人の観光客の方が通りかかり私たちに丁寧に教えてくれたため難を逃れた。そして、検査も終わり荷物をもってゲートをくぐるとものすごい数の人が空港でお客や家族、親戚などを待っていた。私達は、最初どこにJICAの方々がいるのかわからず探すと「KinKi University」と書かれた紙を持った方がいることに気がつき、そこで初めて隊員の方と遭遇した。ペルーは、その日湿度が高く夜なのにとても暑い国であると感じた。最後に日本に帰る時は寒くて仕方がなかったが、その時は何か暑く感じた事がいまでは不思議である。

その後、バスに乗り込み次の日の連絡事項などを聞きホテルに到着した。ホテルでは、スペイン語で会話を求めてきたので何を言えはいいのかわからず隊員の方に説明をしていただきその日は事なきを得た。また、初めてのスペイン語なのでその時少しペルーにきたのだという実感が湧いた。

部屋は、タブルの一部屋で綺麗な部屋だったが、まず靴で入るといふ違和感とトイレの紙は水に流せないことに違和感を覚えた。そしてその日は時差ボケもありすぐ就寝した。翌日の昼からJICA事務所で研修がおこなわれるため早起きすると、昨晚とは全く違うペルーの一日が始まっていた。昨晚は、人が一人もない路地だったのに一夜あけるとそこはビジネス街と化し人々で賑わっていた。そのまま、JICA事務所に行きペルーでの活動にあたっての注意事項や活動の方向性などを決め、自分たちがペルー共和国に何をしに来たのかを改めて確認し実感が湧いてきた。また、JICA事務所は高層ビルの最上階にある。景色をみると日本と全然変わりのない街並みがそこにあった。日中はビジネス街で行き交う人が多いものの夜はかなり静かな風景になっていた。私のイメージとはかなり違う風景で、車もたくさん走り活気のある都市であった。

(清田龍)

5. 近畿大学学生の活動の様子

我々がペルーで行う主な野球活動は、U-12(軟式野球)、U-16(硬式野球)の少年たちへの指導と、ペルー・セレクションチームとの交流試合、軟式野球の大会での運営・管理である。それぞれの様子は、派遣隊員に以下述べてもらうこととする。

5. 1 指導の様子(球場別)

・ AELU(アエル)

前回同様、今回も、AELUという施設にお世話になった。AELUとは日系人の方々が中心となって作られた総合運動施設である。施設内には野球場、サッカー場、フットサル、テニスコート、ゲートボール場、屋内外のプール、陸上競技場など、様々なスポーツの設備が揃っており、深夜までスポーツを楽しんでいる人もいる。その他にも、レストランや売店が複数あり、AELU内だけでも充実した生活が送れるといえる。このように充実した環境があるので、AELUの子ども達はペルー国内において野球の技術も比較的上手な子が多い。しかし、日本の同年代の子ども達と比べると技術力の不足は否めない。

グラウンドも日本に比べると、平らではなく大きな石が転がっていたりする。子ども達が身につけている用具を見ると新品のグローブを使っている子どもはおらず、ほとんどが寄付道具を貰って使っている。バットは個人で所有している子どもはおらず、チームのバットを全員で使い回している状況であった。シューズもスパイクではなく普通の運動靴を使用しており、サッカー用のスパイクを履いてプレーしている子ども達も多く見られた。そのような状況においても子ども達は大好きな野球を一生懸命に楽しんでプレーしていた。

私達も指導しているうちに、野球を始めたばかりの頃の純粹な気持ちで野球を楽しむ事ができた。私達をあたたく迎え入れてくれて、親切にしてくれたAELUの方々には感謝の気持ちでいっぱいである。

(下村航平)



写真2 AELUの様子

・ CALLAO(カヤオ)

CALLAOは私達が宿泊したAELU同様、野球場だけでなくサッカーグラウンド、バスケットボールのコート、体育館など多くのスポーツ施設を所有していた。

CALLAO球場は整備が進んでおり、多少の凸凹などはあるが日本と変わらない環境であり、近年、電光掲示板も設置された。余談ではあるが、ペルー代表との練習試合で初勝利を挙げたのもCALLAO球場での試合であった。道具も他の球場と比べると、よく揃っていたという印象である。子ども達も一生懸命練習に励んでくれた。

言葉が余り通じなくとも、野球を通じて共有する事ができ、改めて野球（スポーツ）の素晴らしさを感じる事が出来た。私達は、CALLAOで多くの子ども達への野球指導及び、ペルー代表との試合を行う事ができた。また、現地のペルーのコーチの方々にも大変お世話になり、様々な場面でも助けられた。

この素晴らしい経験（体験）は今後の私の人生において大きな糧になるだろう。ペルーで得たボランティア経験（体験）を多くの人に伝えていきたい。

（清水裕司）

・ SUN LUIS (サンルイス)

今回私達はJICAボランティアでペルーに派遣され、主に子供達の野球指導を行った。そして私達は各球場で野球指導を行ったが、中でもSUN LUIS球場はAELUやCALLAOと違い、他のスポーツ施設がなく野球場が一つあるだけの日本でもよく見る光景の球場だった。

球場自体の施設はよく、多少グラウンドに砂利は落ちていたものの野球をやるには充分な環境であると感じた。しかし球場の周りを見渡すとペットボトルなどのゴミが散乱しており、球場周辺はあまり綺麗な印象は見られなかった。このまま放っておけばグラウンドそのものも汚れていき、野球ができる環境では無くなってしまいかもしれない。現地の人や子供達もゴミが落ちていることが当たり前の光景で見慣れてしまっているのか、ゴミが落ちていても誰も拾おうともしない。野球の指導をするのも大切ではあるが、まずはグラウンド内外の環境整備から始めることが大切だと痛感した。来年もペルーへ行く隊員たちにはグラウンドの大切さやゴミ拾いなどの環境整備の重要性を伝えてほしいと感じた時でもあった。

野球指導の方では、最初の印象としては日系人の子供達を中心で野球をしているという印象が強かったのだが、意外に多くのペルー人の子供達が野球をしていたのに驚いた。最初は戸惑いながらも徐々に回数を重ねていくことによって子供達との距離も縮まり、子供達の保護者や野球チームのコーチの人達にも飲料水の差し入れなどをしていただき、活動もしやすく指導もやりやすくなった。参加者の中には女の子もいて、年齢や性別に関係なく私達隊員が考えた練習メニューを楽しんでくれた。練習で子供達はひたすらボールを追いかけたり、いい当たりを打って大いに盛り上がったりと、無邪気に喜



写真3 CALLAOの様子

ぶ子供達が多かった。私達隊員が伝えなかった野球の楽しさを少しでも伝える事が出来たと思う。道具が少なく、思う様な練習が出来ないことも多いと思うが、一つだけ確かに言えることは野球が楽しいと思う気持ちは同じだということである。今回のボランティアで私達は改めて野球の楽しさ、道具やグラウンドの大切さを学ぶことが出来た。子供達が野球を楽しんでいる姿を見ていると、私達も子供の頃に初めて野球をした時や初めてグローブを買ってもらった時を思い出し、何か懐かしい気持ちになった。この様な素晴らしい経験（体験）は今後もぜひ多くの人達にも経験してもらいたい。また、野球がやりたいの道具や場所が無くて野球が出来ない子供達がいる事も忘れないでほしい。

（田上啓一郎）

・ HIDEYO NOGUCHI (ヒデオ ノグチ)

私たちは多くの地域で子供たちに野球の指導を行った。野球ができる環境は、地域によって様々であったが、日本の環境がいかに素晴らしいかを改めて理解することができた。

その中でヒデオ ノグチはリマの中心地からバスで40分ほどの場所にあり、他の地域に比べて道路も整備されておりバスが横転するのではという程の所もあった。

グラウンドに到着すると雑草がグラウンド一面に生えており、大きな石なども多くみられ、野球の練習をする環境ではなかった。しかし、

そのような環境の中でも私たちの野球を見てみたいという子供たちが70名ほど集まってくれたことは非常にうれしいことであった。最初はグラウンド状況の悪い中で本当に野球をすることができると疑問に思うことが多かったが、子供たちと一緒に野球をして、触れ合うことによりグラウンド状況が悪くてもしっかりと野球を楽しむことができた。日本では野球をする環境がどこにもあり、整備されたグラウンドで野球をすることが当たり前となっているが、ペルーではそんなことを気にするまでもなく野球がしたいと言う気持ちが子供たちに非常に満ち溢



写真4 SUN LUISの様子



写真5 HIDEYO NOGUCHIの様子

れていた。この感覚は今まで日本にいて経験（体験）することのできなかつた非常に貴重な時間になったと思う。

これからの私の人生で非常に役に立つことだと何度も感じる事ができ、自分自身も成長することができた。

（野木鵬太）

5.2 大会運営の様子

私たちは、SUNLUISS球場で行われた軟式野球の大会の運営に審判という形で携わることができた。

日本であれば小学生の学童野球大会のようなもので、トーナメント方式で行われた。日本との違いはチーム数の少なさから勝ち残り負け残りの二つのトーナメントがあり、大会終了時にはすべての順位が決まるものである。野球をしている子どもたちの姿は、日本の子どもたちと何ら変わりなく一球に集中した真剣な姿が印象的である。ペルーの野球は日系人のスポーツとして発展してきた背景があるが、それだけにレベルの高いチームは日系人のチームが多いように感じた。しかし、日系人ではない子ども達も数多く野球をやる姿がそこにはあり、ペルーでの野球人口の広がりを感じることができた。

試合中、インニングの合間に投手にボールを渡すと日本語で「ありがとう」と言ってくれたことが何度かあった。日本語でなくとも私たちに「Gracias」という感謝の言葉を何度も投げかけてくれた。私たちのほんの些細な行為にも感謝の気持ちを伝えてくれる素直な子どもたちの姿から今後の競技レベルの向上に期待を感じた。また、大会運営に携わることで、ペルー野球の良さやこれからの期待を細部に垣間見ることができた。審判の方々の熱意や保護者の方々の熱い声援はとても素晴らしかった。ペルーの野球に対する想いは強く、だれもがより良い環境を作ろうと取り組む姿が印象的だった。

（東優勝）

5.3 試合の様子

今回、私たちは青年海外協力隊ボランティアの活動として野球指導を行い、指導の他に交流試合も行った。交流試合はペルーセレクションチーム、AELUとCALLOのクラブチームを対象に行った。ペルーセレクションチームとの試合は1勝2敗1分という結果だった。ペルーセレクションチームの選手にはレベルの高い選手もおり、これからのペルー野球の普及や、国際大会での飛躍の可能性を感じることができた。また、ペルーは親日国でもあり、日本の野球文化を多く取り入れていた。

そして、ペルーの人々はとてもあたたかく、ペルーチームの応援だけでなく私たちに對しての応援やスポーツドリンクや水、サンドイッチなどの差し入れまでしてくれた。

ペルーの選手達は全員真剣にプレーをしてくれて、負けたチームの選手が悔しさを表にだすこともあり、野球への真剣な取り組みが伝わってきてとても嬉しく思った。

試合をするだけでなく親切にしてくださいましたペルーチームの関係者には感謝の気持ちでいっぱいである。そして、これからペルー野球がさらに普及、向上して行くことを願っている。

（下村航平）

6. まとめ

今回の活動は、野球というスポーツをペルーの子どもたちに指導するということがひとつの目的であったが、各地域の野球チームの指導者や保護者、日常生活でお世話になった人達、野球連盟の方々等の支えもあり私たち自身が貴重な体験をすることができ、成長することができた。

この経験は日本では決して経験（体験）することができない非常に大きな成長の糧となった。日本は今、国際化という言葉に敏感であるが、海外に行くことにより初めてそのことに気づかされた。言葉の通じない不便さや日常生活での違いなど、日本の文化風習以外の事に触れどういったことが大切なのかという事を改めて実感することができた。

今回の活動により海外の文化風習に触れることの重要性を非常に理解することができた。このような活動は減多に経験（体験）することのできないことではあるが、学んだことを多くの方々に還元しさらなる自分自身のスキルアップに繋げていきたい。



写真7 ペルーセレクションチームの選手と



写真6 ペルーセレクションチームとの試合の様子

7. 終わり

私たちはペルーという地で大好きな野球を通じて社会貢献や異文化交流を経験することができた。この経験はどのようなものにも代えがたい貴重な財産となるであろう。私たちが温かく迎えてくださったペルーの関係者の方々には心から感謝をしている。

そして、今回の派遣のためにご尽力いただいた近畿大学関係者の方々に感謝を述べたい。学部長をはじめ多くの大学関係者のおかげでこのような貴重な経験をすることができた。特に、青年海外協力隊のOBでもある黒田次郎先生、硬式野球部肘井利一監督には、派遣に際して多くの助言をいただき心から感謝したい。

また、JICAの方々や、関係各位にも多くの支援をしていただいたことに対しても感謝の気持ちを伝えたい。私達が活動してきた背景には、多くの方々の支援がある。決して私達の力だけではこのペルー派遣が成り立たないことを忘れてはならない。

最後に、私たちのボランティア活動には続きがある。ペルーで経験(体験)して得てきたものをこれから社会に還元していかなくてはならない。そして、人に伝えることで次に繋いでいくべきである。帰国して、私達全員がその使命感を持っている。今回の経験を社会人として、大学生として、野球人としてそれぞれが活かしていくことが日本社会への還元へと繋がる。

形は違っても私たちの将来にこの素晴らしい経験(体験)が大きなプラスになることは間違いないであろう。

引用文献

1. JICAホームページ JICAについて
<http://www.jica.go.jp/mobile/about/index.html> (2015年3月30日検索時点)
2. JICAホームページ JICAボランティアの歩み
<http://www.jica.go.jp/volunteer/outline/history/> (2015年3月30日検索時点)
3. 陰山厚樹、手銭勇輔、他(2014)「第2回JICA短期ボランティアに参加して ～ペルー野球派遣で学んだこと～」近畿大学産業理工学部 かやのもり20、66～72頁
4. ペルーを支援する会(2004)『グラフィアスペルー 海を越えたキャッチボール』ペルーを支援する会、11～19頁、255頁
5. ペルー共和国 外務省Ministry of Foreign Affairs of Japan
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/peru/> (2015年4月13日検索時点)

参考資料

1. メアリー・M・ロジャーズ(2001)『ペルー「目で見る世界の国々」10』国土社、8～10頁

2. アニタ・クロイ(2008)『ナショナルジオグラフィック世界の国「ペルー」』ほるぷ出版、8～10頁
3. 細谷広美(2003)『ペルーを知るための62章』明石書店、3～5頁、333～337頁
4. ペルー共和国 勉強って楽しいんだ
<http://www.meikogijuku.jp/enjoy/world/peru.html> (2015年3月30日検索時点)